

二〇一〇年前後からラテンアメリカ文学の翻訳は急速に進んでいる。振り返れば、一九七〇年代に国書刊行会「ラテンアメリカ文学叢書」（全十五タイトル）の刊行が始まって以降、八〇年代の集英社「ラテンアメリカの文学」（全十八タイトル）、九〇年代の現代企画室「ラテンアメリカ文学選集」（全十五タイトル）といったシリーズが企画されたおかげで、それまでも邦訳点数は着実に増えていたが、現代企画室「セルバンテス賞コレクション」の刊行が始まった二〇〇九年から現在までの十年間に、以前とは比較にならないペースでラテンアメリカ文学の新刊・復刊が続いた。松籟社「創造するラテンアメリカ」や水声社「フィクションのエル・ドラード」といったラテンアメリカ文学に特化したシリーズや、現代企画室「ロス・クラシコス」のように「スペイン語圏」という枠組みで古典的名作を刊行する企画が目下進行中のほか、「ポラーニョ・コレクション」を手掛けた白水社を筆頭に、毎年のようにラテンアメリカ文学の作品を刊行する出版社は多い。要因は様々だが、研究者・翻訳者の数は次第に増えているうえ、二〇〇七年に開館したセルバンテス文化センター東京の活動が軌道に乗り始め、スペイン、メキシコ、アルゼンチン、ウルグアイ、チリなどが相次いで翻訳助成金を整備するなど、制度的な支援体制が整ったことは非常に大きい。この文章を書いてい

る二〇一九年十一月の時点でも、ラテンアメリカ文学の傑作とされる作品の翻訳がいくつも進んでおり、今後もラテンアメリカ文学愛好家の選択肢はどんどん広がっていくことだろう。

そんな折に、勉強出版の編集者から「ラテンアメリカ文学事典」のような本を作れないものかと相談があり、紆余曲折を経て本書の執筆に臨むことになった。とはいえ、最初の懇談から明らかになったことは、出版社の側にも私の側にも、紹介する本のすべてを読者に推薦するようなガイドブックを編む意思はまったくない、という事実だった。これまでの私の「辛口」を評価してくれていた編集者の了解もあり、本書の執筆にあたっては、「何を讀むべきか」とともに、「何を讀まなくてもいいか」を判断するための情報も盛り込んでいる。最良の読書法とは悪書を読んで時間を無駄にしないことだと論じたのは哲学者のショーペンハウアーだが、世界各地の様々な文学作品が日本語で読めるようになった昨今、読み終わってがっかりするような本を予め避けることができればそれを超えたことはない。文学研究に携わる者は、たとえ先行研究や時事批評で酷評されている本であっても、研究上の必要から読まねばならないことが多く、そのせいもあって私は、研究と無関係な読書に際して、読書ガイドや書評で激賞された本や、友人知人から強く勧められた本がつまらなかつたりすると、なんとも不快な失望感を味わう。それが「古典的名作」であれば、読み終えた満足感が多少は残るものの、当該作品が一時持て囃されただけですぐに見向きもされなくなったりすると、なおさら不快感が後を引く。こうした経験を踏まえ、本書では、すでに「古典化」している一部の傑作を除いて、安易に作品を称賛することは避け、時に辛辣な表現も辞することなく論評を展開している。そのうえで、作者の文学史的位置づけとその代表作を概略し、研究者としての評価

を下すことで、読者に判断の指針を示してみた。執筆にあたっては、文学研究者の観点からできるだけ客観的な記述に努めたつもりだが、当然ながら、そこに私の個人的文学観や主観的感想が投影されていることを否定するつもりはない。

こんな着想からガイドブックを書いてみようと思いついたのには、それなりの理由がある。確かにラテンアメリカ文学の邦訳が増えいくこと自体は喜ばしいことなのだが、その反面、刊行される作品の「玉石混交」ぶりを前にすると、研究者として当惑を禁じ得ないことがある。出身国でさえほぼ無名という作家の作品が「名作」として翻訳されることがあるばかりか、スペイン語圏では「娯楽」としか見なされていない作品が高尚な「純文学」のように紹介されることも少なくはない。邦訳する作品の選定や宣伝の仕方には出版社ごとの思惑があるものだし、たとえ現地で評価されていない作品でも、日本にそれを楽しむ読者がいればそれでいい、という意見に異論はないが、現地における専門家の評価を読書の参考にしたという読者の声もよく耳にする。現地で高く評価されている作品や、文学史に名を刻む名作を手にとれば、たとえ読んでつまらなかつたとしても、徒労感が避けられるだろう。

このような見地から本書は、スペイン語圏における批評や研究に即して、現時点で文学史的に重要と考えられるラテンアメリカ文学の作家百名を選出し、読者向けに情報を整理することに主眼を置いた。作家選定にあたっては、現在もスペイン語圏各地で読まれ続けているという点に重きを置き、局地的にしか知られていない作家や、すでに忘却の彼方に消えつつある作家は本書の対象とはしなかつた。いくつか例を挙げておくと、ジョシュことホセ・ミゲル・サンチェス・ゴメス

(キューバ、一九六九―)やカルロス・バルマセーダ(アルゼンチン、一九五四―)は、それぞれの母国においてさえ、一部の専門家や関係者を除いてまったく名を知られていない。また、エドムンド・デスノエス(キューバ、一九三〇―)やセネル・パス(キューバ、一九五〇―)、マルタ・トラバー(コロンビア、一九三〇―一九八三)らは、名前だけは今も人々の記憶に残っていても、現在のスペイン語圏でその作品を手にする読者は極めて少ない。そして最終的に、「ラテンアメリカ文学の特徴を理解するための道標となる」という観点から作家に優先順位をつけ、その人数を百人まで絞り込んだ。ノーベル文学賞詩人ガブリエラ・ミストラル(チリ、一八八九―一九五七)やセペロ・サルドウイ(キューバ、一九三七―一九九三)など、個人的には興味がある作家でも選から漏れたケースが多少あるものの、おかげで論点が整理され、いたずらに情報ばかり膨らむ事態は避けられたと思う。もちろん私の不注意や無知から見過ごしている作家もいるかもしれないし、異論も多く噴出することだろうが、それを契機に今後新たな議論が開かれれば、さらに大きな実りに繋がることだろう。そのうえで、敢えて「逆編年体」に作家を並べ、二十一世紀から十九世紀へと遡っていく構成をとることで、ラテンアメリカ文学の「現在地」を読者が意識できるよう配慮した。どうしても時代順に文学史の流れをたどりたいという方は、本書を逆向きに読んでいただいてもかまわないし、時系列に沿った拙著『ラテンアメリカ文学入門』(中公新書、二〇一六年)を参照していただければ幸いだ。

選定した百人の作家については、一人ひとりについて、簡潔に伝記的事実をまとめたうえで、文学史的評価のほか、人物像をよく伝える有名な逸話や、作品と深く関わる作者自身の発言等を補足しながら、その生涯を概略した。文学研究において常に重視されてきた十人に関しては、倍量を割いて作家紹介を行っている。『ラテンアメリカ文学入門』からこぼれおちた興味深い裏話も、で

きるだけ本書に盛り込んだ。それぞれの末尾には、私自身が読者に最もお勧めしたい作品を1作ないし2作選び、そのみどころを簡潔に解説している。作品の評価はすべて原書に対して行っており、今後邦訳が刊行されることに期待を込めて、敢えて邦訳のない作品を選んでいる場合もある。

本書の執筆にあたっては、できるかぎり多くの研究書や論文を参照したほか、『エル・パイース』（スペイン）、『ラ・ナシオン』（アルゼンチン）、『クラリン』（アルゼンチン）、『ラ・ホルナーダ』（メキシコ）といった新聞や、『レトラス・リブレス』（メキシコ）、『ネクスス』（メキシコ）といった雑誌の電子版を利用して情報を収集した。また、個人的に付き合いのある作家や研究者とは常に意見を交換し、独断に陥ることのないよう努めた。参考まで、本書の執筆にあたって重視した文献を以下に挙げておく。

- Brushwood, John S. *The Spanish American Novel: A Twentieth-Century Survey*. University of Texas, 2011.
- Fornet, Jorge. *Sabur el fuego: notas sobre la nueva narrativa latinoamericana*. UNAM, 2018.
- Fuentes, Carlos. *La gran novela latinoamericana*. Alfaguara, 2011.
- Lindstrom, Naomi. *Twentieth-Century Spanish American Fiction*. University of Texas, 1994.
- Marco, Joaquín. *Literatura hispanoamericana: del modernismo a nuestros días*. Espasa-Calpe, 1987.
- Oviedo, José Miguel. *Historia de la literatura hispanoamericana (1-4)*. Alianza, 2012.
- Rodríguez Monegal, Emir. *Narradores de esta América (I, II)*. Alfadil, 1992.
- Shaw, Donald. *Nueva narrativa hispanoamericana: boom, postboom, posmodernismo*. Cátedra, 2005.

Smith, Verity. (Ed.) *Encyclopedia of Latin American Literature*. Fitzroy Dearborn, 1997.

Villanueva, Darío, José María Viña Liste. *Trajectoria de la novela hispanoamericana actual: del "realismo mágico" a los años ochenta*. Espasa-Calpe, 1991.

SAMPLE

目次

まえがき (1)

基礎用語集 (7)

サマンタ・シュウウェブリン	2	エドモンド・パス・ソルダン	10
アレハンドロ・サンブラ	4	ロドリゴ・フレサン	12
ファン・ガブリエル・バスケス	6	ホルヘ・フランコ	14
ホルヘ・ボルピ	8		
【コラム】ラテンアメリカにおける文学賞の功罪	16		
フェルナンド・イワサキ	18	オラシオ・カステジャーノス・モヤ	28
カルロス・フランツ	20	ファン・ビジャロー	30
ロドリゴ・レイ・ローサ	22	レオナルド・パドゥーラ・フエンテス	32
エクトル・アバッド・ファシオリンセ	24	ロベルト・ボラーニョ	34
エベリオ・ロセーロ	26	アルベルト・ルイ・サンチェス	36

ラウラ・レストレーボ	38	アリエル・ドルフマン	58
ラウラ・エスキベル	40	リカルド・ピグリア	60
ルイス・セプルベダ	42	エドゥアルド・ガレアーノ	62
セサル・アイラ	44	グスタボ・サインス	64
ジョコンダ・ベリ	46	マリオ・レブレロ	66
レイナルド・アレナス	48	ホセ・エミリオ・パチエーコ	68
ノルベルト・フエンテス	50	アルフレド・ブライス・エチェニケ	70
フェルナンド・バジェホ	52	ルイサ・バレンスエラ	72
セルヒオ・ラミレス	54	ファン・ホセ・サエール	74
イサベル・アジェンデ	56	マリオ・バルガス・ジョサ	76
【コラム】ラテンアメリカ文学と文学エージェンツ	80		
フェルナンド・デル・パソ	82	エベルト・パデイージャ	94
トマス・エロイ・マルティネス	84	ホルヘ・エドワーズ	96
セルヒオ・ピトル	86	ファン・ヘルマン	98
マヌエル・プイグ	88	フリオ・ラモン・リベイロ	100
サルバドール・エリソンド	90	ギジェルモ・カブレラ・インファンテ	102
エレナ・ポニアトウスカ	92	カルロス・フエンテス	106



ホルヘ・イバルグエンゴイティア……………110 ガブリエル・ガルシア・マルケス……………112

【コラム】「ラテンアメリカ文学のブーム」回顧……………116

ホセ・ドノソ……………118 アドルフォ・ビオイ・カサーレス……………138

アルバロ・ムティス……………122 フリオ・コルタサル……………140

アウグスト・モンテローソ……………124 オクタビオ・パス……………144

マリオ・ベネデッティ……………126 ブラウリオ・アレナス……………148

ファン・ホセ・アレオラ……………128 ビルヒリオ・ピニエーラ……………150

アウグスト・ロア・バストス……………130 エルネスト・サバト……………152

ファン・ルルフォ……………132 ホセ・マリア・アルゲダス……………154

エレナ・ガール……………134 ホセ・レサマ・リマ……………156

ホセ・レブエルタス……………136

【コラム】ラテンアメリカの新聞・雑誌と創作活動……………158

マヌエル・ムヒカ・ライネス……………160 アレホ・カルペンティエール……………172

ファン・カルロス・オネットイ……………162 パブロ・ネルーダ……………176

ミゲル・オテロ・シルバ……………166 アグステイン・ヤニェス……………178

ホルヘ・イカサ……………168 ホセ・デ・ラ・クアドラ……………180

アルトゥーロ・ウスラル・ピエトリ……………170 シルビナ・オカンポ……………182

フェリスベルト・エルナンデス	184	ロベルト・アルルト	188
レオポルド・マレチャル	186	ミゲル・アンヘル・アストゥリアス	190
【コラム】ラテンアメリカ文学の地域差と文学的特色			
ホルヘ・ルイス・ボルヘス	194	オラシオ・キローガ	214
マヌエル・ロハス	198	レオポルド・ルゴージェス	216
セサル・バジェホ	200	マセドニオ・フェルナンデス	218
ビクトリア・オカンポ	202	マリアノ・アスエラ	220
ホセ・エウスタシオ・リベラ	204	ルベン・ダリオ	222
マルティン・ルイス・グスマン	206	ホセ・マルティ	224
リカルド・グイラルデス	208	クロリンダ・マット・デ・トゥルネル	226
ロムロ・ガジェゴス	210	ホルヘ・イサークス	228
アルシデス・アルゲダス	212	ホセ・マルモル	230